

カトリック 仙台教区報

2010年5月2日 No.193

発行

カトリック仙台司教区

〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12

Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378

発行 任 広 報 委 員 会

URL <http://sendai.catholic.jp/>

復活の主をたたえよう！

仙台教区司教 平賀 徹夫

主キリストは死の闇を通つて、復活

なさり、新しい命・復活の命を現わしてくださいました。主のご復活おめでとうございます。「主・キリストは十字架で死なれたが、復活された。そしてわたしたちと共にいてくださる」これがキリスト教の信仰、私たちの信仰、一番の中心です。

主キリストの十字架上の御死去と

死者からの復活はどういう意味をもって私たちに迫ってくるのでしょうか。今日の第一朗読、ペトロの説教に「この方を信じる者はだれでもその名によって罪の赦しが受けられる」とあります。キリストが十字架上の死を遂げられたのは、罪を犯して父である神から離れ悪に沈んでいる人類を、神との親しい交わりに立ち返って生きる者としてくださるために、その一切の罪、咎、背きを人類に代わって償うためでした。こうして神の人間に対する愛の究極の有様が表されました。そしてこれこそが、本当に罪の赦しは与えられるのだと確信できる唯一・最高のよりどころとなるのです。もちろんこれを受け止めるには信仰が必要です。「十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者に

います。

私たちは、本日まで「過越の聖なる三日間」を過ごしてきました。「最後の晩餐の夕べ」では、パンを「あなたがたのためのわたしの体」、ぶどう酒を「罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血」として、ご自分の命全部を、弟子たちに、そして



幼児洗礼(東仙台教会)

私たちに与えてくださるためにミサを定めてください。次の日には、主のご

十字架に釘付けにされるとき「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです(ルカ23・34)」との言葉がイエスの口からあふれます。それから十字架上で息を引き取られたキリストは墓に葬られました。弟子たちは「先生は殺されてしまった、すべては全くの虚無に帰してしまつた」と、絶望のうちに空虚な一日を過ごすのですが、しかし、その三日目、今日、「主は生きておられる。前もって言われていた通り、復活なさ

は神の力です(Iコリント1・18)」と聖パウロは言

った」というすごい知らせがもたらされました。今、私たちも、「罪の赦しの約束は真実なんだ。今、いつでもどこでも、復活の主は私たちと一緒にいてくださる」という、信仰による現実を喜び合うことができるのです。

私たちは使徒たちを起源とするキリストの死と復活の証しに触れ、それを信じ、受け止めました。信仰によってキリストに帰依し、洗礼を受けたということは、まず、私たちは、十字架に付けられて死んだキリストに結ばれてそのキリストと共に、神のお心に逆らう罪や闇に対しては死んだものの・縁の無いものとして生きることができるとなったのです。復活されたキリストと共に復活の命にあずかるものとして、光であるキリストと結ばれ、光の子として生きる者としていただいたのです。

しかし自分の力だけで光の子として生きることはありません。祈りのうちにキリストといつも結ばれ、キリストの力を頂くからできるのです。キリストの力が、弱いわたしを通して現れる、わたしはキリストが望まれるままに使っていただけることを体験することができます。主キリストのうちに一つに結ばれ、キリストの一つの体として、神の愛を、神の赦しが与えられたのだという信仰の真理を、証しするように呼ばれたのです。新しい仲間と共に、キリストの体という一つの体に集められたものであることを、喜び合いましょ。そして一緒に復活の主キリストをたたえましょ。

生命の泉

▼ご復活を迎え彩色された卵でお祝いしたことでしょう▼キリストのご復活は桜の花のように色鮮やかに誰の目にもはっきりと認められるようではありませんでした。それどころか一緒に行動を共にした弟子たちでさえ「あなたはどなたですか」(ヨハネ21・12)と問いただしたかったほどでした。目で見て確認することはできなかったというのは誠に興味深いことです▼ヨハネ福音書には弟子たちそれぞれに個性的な仕方での復活の主を確かめたとあります。召しだされた時

が人それぞれであるように神様のご計画によってみこころに触れるのも個別적입니다▼信じる者みんな一人ひとりが自分に合うように配慮されているということになります▼イエス様は弟子たちに会うたびに「あなたがたに平和があるように」と言われる。復活の信仰に導かれたものは神を身近に感じ「心の平和」を得て共同体を組織し、一致して祈り、共に助け合い、遣わされたところで働くように招かれているのです。(守)

「仙台教区年！」 75年の感謝と希望をもってこれからへ

「仙台教区年！」、第5回準備委員会が、4月17日(土)午前10時から教区センター2階会議室で開催された。

今回で、メンバー13名が以下の通り全てそろった。平賀司教・梅津師・舟山師・小野寺師・小松師・佐藤大(福島)山田務(宮城)飯塚豊(岩手)神寿美子(青森)佐山淑子(司教直任)赤井悠蔵(司教直任・青

年)相沢咲子(司教直任・青年 Sr. 森本初世(修道者)岩井誠(広報)。(敬称略)

①教区年の主旨を教区全体に伝え、気運を高めていく方策について信徒(小教区・諸事業体)向け開催案内の作成についての話し合いが行われ、教区年のポスターの作製。「教区年だより」(仮称)の様なものを作り、何回かに分けて

情報提供をする。

②企画の仕分けと担当者の決定について討議されたが、具体的な企画がまだはつきりしない状態であり、継続審議となった。

③教区年の「祈り」(歌)「ロゴマーク」の公募については、「教区年の祈り」共同祈願として祈れる内容で、100字程度。「教区年の歌(歌詞)」は長さは3番以内とし、ミサやイベントで歌うにふさわしいもの。「ロゴマーク」はがきサイズに収まる大きさ、カラーでよいが、白黒印刷も可能なもの、

という要綱について検討し、追って教区事務局長から募集要項を各教会へ発送することとした。

④記念誌の発行については、教区の歴史をまとめ、将来のために資料として残すことを考え発行することとなったが、今後の検討課題として継続審議となった。

⑤その他、子どものためのミサ、青年のためのミサなど、典礼を通して教区年の意味を浸透させることや、司祭が、教区年について信徒に話して欲しいとの要望が出された。

各事業体や団体が企画する行事については、「教区年参加行事」とし、ポスターやチラシにロゴマークを使用することや、その行事について仙台教区が後援することも検討された。

ホセ神父です。よろしく!



皆さん、お元気ですか。私はグアダルーペ宣教会のゴンザレスマルケス ホセ

アルフレド神父です。あまりにも長い名前ですので「ホセ」と呼んでいただければ嬉しいですよ。

1975年12月6日にハリスコ州のサンファンデロスラゴスで生まれました。家族は父と母、7人の兄弟姉妹の長男です。姪6人、甥1人がいます。

兄弟はまだ若いので家族が大きくなっていくのが楽しみです。

初めて日本に来たのは2000年3月22日です。まず日本語学校に通って日本語を学びながら、日本の文化、日本の歴史も少しずつ学びました。2001年12月まで日本語を学んでから、2002年3月、東京カトリック神学院に入り、日本語で神学の勉強を始めました。外国語(日本語)での勉強は、あまりにも難しかったです。4年の間に日本人、ベトナム人、フィリピン人などの神学生と暮らしながら、特に日本の教会の宣教師になるために養成されました。

2006年9月23日、サンファンデロスラゴスという私の故郷にあるロサリオの聖母教会で叙階されました。一人で叙階されたのですが、大勢の人が式に参加くださり、その中には、人の日本人もいらつしやいました。神父になつてから3年間メキシコのいろいろな教区を回りながら召命活動をしていました。

2009年 月 日に日本に帰ってきました。これから、皆さんと出会いながら少しずつ自分のことを分かち合いたいと思います。そして、これからカトリック教会のため、仙台教区のため、また信者ではない人のため、皆さんのために働きたいと思うのでよろしくお願いたします。

「司祭年」から「教区年」へ

司教 マルチノ平賀徹夫



アルスの司祭、聖ヨハネ・マリア・ビアンネの没後 150 年を記念し、ベネディクト 16 世教皇は昨年 6 月から今年の 6 月までの 1 年間を「司祭年」と定めました。来月 6 月 11 日までで残り少なくなってきたこともあり、教皇様の『司祭への手紙』をあらためて読み返してみました。手紙は司祭宛ですが、教会全体への呼びかけでもあります。「司祭は信徒とともに一つの祭司の民をつくる」(『教会憲章』10) のですし、その「旅する教会は、その性質上、宣教者である」(『教会の宣教活動に関する教令』2) ことから、次のような箇所などは特にすべての人に宛てられていると言えるでしょう。

「アルスの主任司祭の困難な時代と同じように、現代世界においても、司祭の生活と活動は『福音の力強いあかし』を特徴とするものでなければなりません。パウロ六世がいみじくも述べたとおり、『わたしたちの時代の人間は、教師よりもあかしする人に喜んで聞きます。それどころかもし教師にその耳を向けるとしたら、彼らがあかしをする人だからなのです』。生きるむなしさを感じたり、奉仕職の効果が落ちるようなことを避けるために、わたしたちはいつも自らに問いかけなければなりません。『わたしたちは真の意味で神のことにばよって満たされているでしょうか。神のことは本当にパンやこの世のもの以上に、わたしたちの生きる糧となっているのでしょうか。わたしたちは本当に神のことにばよっているのでしょうか。神のことにばよを愛しているのでしょうか。…』」(p.18)。

以前の「パウロ年」ではパウロ書簡からキリストの福音を学び、味わい、この「司祭年」では聖ヨハネ・マリア・ビアンネに倣う生き方に心して過ごしています。教区ではこの後、来年 7 月からの 1 年を「仙台教区年—75 年の感謝と希望をもってこれからへ—」とすると定めました。今、その準備に取りかかっていますが、聖書からの学びを深め、諸聖人に倣う中で、祈りに心を注ぎながら、先人から教区を受け継ぎ(感謝)将来へと伝えていく(希望)わたしたちの役割・使命と一緒に確認し喜び合う「仙台教区年」としたいと念じています。

復活祭に洗礼を受けて

4月3日(土)、復活徹夜祭に教区内各地の教会で、入信の秘跡(洗礼式)が行われた。受洗された皆様、おめでとうございます。受洗者から本誌に寄せられた、喜びの声を一部を紹介します。

アシジのフランシスコ

高橋 大(65) 一本杉教会

私が洗礼を受けるきっかけとなったのは、今から30余年前に同じ会社の、ご家族全員がクリスチャンである方からのお誘いでカトリックボーイスカウトのリーダーをしたこと、その方のご家族とそこにおられたロワゼール神父様を通して、永い期間の交流のなかに温かい愛を感じたことです。またこれからは、神の教えに従い私自身を省み、聖書の教訓をさらに深く理解したいと考えて

小さきイエスのテレジア

山館久美子(36) 弘前教会

私は小さいころからぜんそくやアレルギーなど、いつも入院する子どもでした。大人になった今でもあまり丈夫な方ではありません。そのせいか病気がちな自分を隠すために無理して生きてきたように思います。最近あまり体の状態が良くなり、ただ耐える毎日を過ごしてきました。そんなときに母から「洗礼を受ける気はないの?」という言葉かけられま

した。抵抗する気持ちはなく、すんなりとそのことを承諾し、道が出来たように思います。そして夜の聖書勉強会やミサに出席し、神父様や参加している方がたの意見を聞き、自分自身を束縛していた心が、ゆつくりと開いてきた気がします。

これからは神様を心の支えとして、恵みが少しでもあればと願っています。この機会をくださった、導いて下さった方々に感謝します。

ラザロ虹川 孝雄(30代) 弘前教会

小学校の頃、函館のトラピストン修道院を修学旅行で訪れて以来25年、いろいろあつて、地元弘前でカトリック教会に通い始めたのが、昨年でした。そのきっかけ

は、昨年の復活祭に受洗された二人の方でした。私もあのようになりたいと思います。聖書勉強会に通いました。主任司祭からやさしく導きを受け、とんとん拍子に受洗に至りました。

イエス様は、「いつも喜んでいなさい」とのお言葉通り、すばらしい宝物をお与えくださいました。

ヨゼフ 武山 渉(74) 東仙台教会

私を入信に導いた妻は、若い時に洗礼を受けたのですが、教会とは長い間疎遠になっていました。

平成20年、スペルマン病院のホスピスに入院してシスターの心安らぐケアを受けて、今までの不信心を悔いていました。妻が旅立つ数日前、私の分まで勉強してねと言いつつ残して逝きました。妻の思いを無にしたくなくシスター長谷川さんに教えを受けて洗礼を授かることができました。

これからは、兄弟姉妹の皆さんに指導をいただきながら信仰の道を歩んで行きたいと思っています。

マリア パオラ

荒川 恭子(30代) 元寺小路教会

ちょうど20年前の4月、私は仙台白百合学園中学校に入学し、記念として故三ツ谷絢子校長先生から、元寺小路教会で、同級生の皆と共に聖書を手渡していただきました。校長先生は、「聖書は神様からの手紙です」と話してくださいました。中学・高校・大学と聖書を通して神様からのお言葉を学び、心の中にイエス様が

てくださり、キリスト教の環境で平和に過ごしました。しかし、社会に出ていままでも当たり前だった平和な生活が一変しました。心の中心だったイエス様が、徐々に職場や上司に置き換わり、自分にとって何が大切が見えなくなっていました。心身の病を思い、本当に辛い時期でした。

久々に立ち寄った聖パウロ書院で、シスターからキリスト教入門講座を教えてください、Sr.長谷川の入門講座に学生の時に使っていた大切な聖書を持って参加しました。講座を通して、やはり心の中心はイエス様がいてくださると本当の自分の大切なものが見えるようになり、イエス様を中心とした生活を望むようになりました。

20年前と同じ教会で、恩師やお世話になったシスター方のお優しいお顔を見ながら洗礼を受けた喜びと、素直な心を忘れず、いつも神様が喜んでくださるような生き方をしたいと思います。

ミカエル

佐藤 憲一(61歳) 四ツ家教会

教会の皆様の温かいご支援で無事洗礼を受けることができました。お世話になった皆様、ありがとうございました。聖書を学習し始めると、「こ」とば「や」教えは、かなり新鮮なものでした。しかしそれから一歩進むと、今度は自分に返ってくる

「生きよ」

聖ウルスラ修道会 佐藤かおり



1999年4月3日、その夜の復活徹夜祭において私は洗礼の恵みをいただきました。それから10年がすぎ、今年の復活祭を修道者として迎えることになり、神様の計画の不思議さを感じるばかりです。

3月27日には、多くの方々の祈りと様々な方たちの援助に支えられ、仙台の本部修道院において聖ウルスラ修道会の会員として終生誓願を宣立することができました。神様の導き、そして本当に多くの方々から長い間

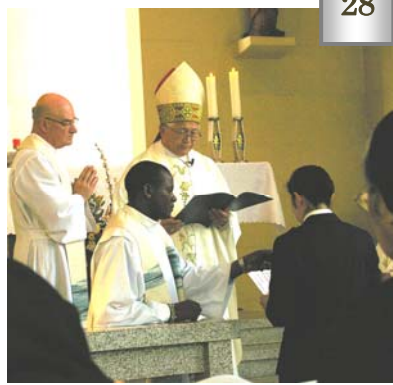
招きにくたえて

28

にわたり寛大なお心づかいをいただきましたことを、あらためて感謝申し上げます。さて、ここではこの10年の間に、私の心にはつきりと響くようになったことの一つをお話ししようと思

います。私は聖書を少しずつ読

(写真Ⅱ 誓願式一コマ)



み進めながらだんだんと心の中に、ある「呼びかけ」を感じるようになりました。それは「生きよ」という呼びかけです。この「呼びかけ」によって、私は目にする聖書のどの言葉からも「生きなさい」という一つのメ

ッセージを聞くようになりまし

「祈り」の分かち合い②

今年の年頭書簡で平賀徹夫司教は、「『祈りに心を注ぐ一年』で信仰共同体作りを」と題して、個人で、家族で、共同体で祈ることを呼びかけています。特に、あの人、この人のためと、顔を思い浮かべて祈るよう勧めています。これを受けて、「仙台教区報」では「祈り」をテーマに紙上で分かち合いを継続していきたいと考えています。教区の皆様の投稿をお待ちしています。

「5本の指の祈り」



＋自分の身体から見て一番近い指は親指。先ずは、もつとも近くにいる人、愛する人のために祈ろう。一番に心に浮かぶし、愛する人のために祈るのは、それは「うれしい義務」なのだから。

＋人差し指は「示す」指。なので、教える人、指導する人、癒す人のために祈ろう。教師、医者、教会の指導者たちもその中に入る。他の人を正しい方向に導くために、彼らこそ、支えられたり、知恵を必要としている人びとなのだから。

＋次の指は一番長い中指。それで長である人を心に留めよう。大統領（総理大臣）、職場の上司、経営者。司教のために祈ろう。こういう人たちが国を作り、世論を導

いていく。彼らこそ神の導きが必要だから。

＋4番目の指は薬指。たくさんさんの人を驚かせる事だが、実はもつとも弱い指である。どんなピアノ教師もみなそう言う。弱い人、困っている人、痛みを感じている人を思い出して祈ろう。その人びとは夜も昼もあなたの祈りが必要としている人びと。彼らのためにはどんなに祈っても、祈りすぎることがない。

＋最後は最も小さな指の小指。神様の偉大さに照らして、他者にとって、自分の存在がいかに小さいかを思い出し、自分のことをこの指にあてはめよう。聖書にこう書いてある。

「あなたがたのうちで最も小さいものが最も偉大なのである」。小指を見て、自分のために祈ることを思い出そう。他の4本の指によって、自分以外の人びとを心に留めて祈った後には、きっと自分のために必要なことも見分けられ、神様にもつとよりよく祈ることができるようになっているはずだから。

（せせらぎ・祈りの風景より）

「次代に継ぐ教会共同体づくりのための祈りと実践」の提言

青森 本町教会 佐井 総夫
皆様の小教区ではいかがでしょう。教会にも少子高齢化現象が急激に進行していることをお

感じになっていることでしょう。教会共同体という集団が、健全な集団として形成されるためには、その内部において年少者から年長者までが相互に関わり合う中で、共に成長していける「生涯発達」が実現していることが不可欠です。現在の教会を考えると、その構成員の多くが高齢者で年少者や青年が占める割合は、極めて少ないのが現状です。

祈りにはいろいろな祈りがあると思いますが、例えば「感謝の祈り」「奉獻・献身の祈り」「救済を求める祈り」「成就を求める祈り」「服従の祈り」「尋問（神の御心を尋ね聞く）の祈り」「沈黙の祈り」等です。これらの祈りの中でも、次代に継ぐ教会共同体づくりのためには、「奉獻・献身の祈り」が必要なのではないでしょうか。現在、毎日曜日のミサに集まっている人々の一人ひとりが、自分の所属する教会を真の信仰共同体へと導くために、どのような実践をするのかということをも具体的な行動として、祈りと共に考え実行していかなくてはなりません。そして、世代間の相互関係が成熟していく中で、共同体内部における「宣教司牧」が果たされ、現在の世代から次の世代へと信仰が受け継がれて、私たちの共同体が信仰共同体としての完成に導かれていくのだと思います。

＜神様からの手紙＞



私のテナントである地球の住人達へ
地球に住んでいる皆さん、何十万年も前に交わした地球のレンタルの契約の期限がもうすぐ切れようとしています。

もしこの契約を更新したいと思うのであれば次にあげることにについて真剣に考えてもらわなければなりません。

①エネルギーの使用量が非常に多くなっています。

なぜそんなに使ったのですか。

②私はいつも豊かに水資源を供給してきました。

今、水不足には苦しんでいる人々がいます。

③満腹になるまで食べる人がいる一方

飢えて死んでいく人がいるのはどうしてですか。

④あんなに多くいた、海の魚、野の獣が少なくなっているのはとても寂しいことです。

⑤世界の温度は毎年上昇しています。なぜでしょうか。

数え上げると色々あります。

あなた方の生き方を考え直す必要があるのではないですか。

（提供；聖ウルスラ修道院小川敦子）

地球を大事にする会

ですから、私たちの共同体を世代間の相互関係の関わりによって、次代に継ぐ信仰共同体としての完成に導くためには、私たちの最も重要な「ミサ」という集会に全ての世代の人々が集い、このキリストの「ミサ」に招かれた司祭・修道者・信徒・求道者の全ての世代の人々が共に関わり合うことで、私たち一人ひとりが生涯にわたって成長していく生涯発達の実現がなされます。そしてそのような関わりの中で、「宣教司牧」というキリストを証する者としての使命を共に果たしていくことで初めて私たちの教会共同体は、信仰を継承していける霊的



(<http://www.hpnmix.com/home/benemiscat/>)

なつながりに基づいた信仰共同体への完成へと導かれていくのです。そのために私は、「次代に継ぐ教会共同体づくりのための祈りと実践」を提言したいのです。（紙面の都合上、原文の一部を抜粋しました。原文は、筆者のホームページをご覧ください。）

大きくなるってことはどんなこと？

司教館で日曜学校黙想会

3月21日に、2009年度の日曜学校の黙想会が東仙台の司教館で行われた。今回の参加者は元寺小路教会から17名、一本杉教会から2名の計19名。リーダーは、ダビデ神父、Sr長谷川を含め7名。

9時30分に元寺小路教会に集合し、路線バスで東仙台の司教館へ移動、10時30分に到着すると平賀司教様が司教館の中を案内して下さった。子どもたちは、初めて入る司教館に緊張

の面持ちで中を見て回った。特に廊下にかけられている歴代司教様の写真には特に興味を引かれたようだ。

その後、畳の部屋で、司教様から講話をいただき、みんな真剣に聞き入っていた。司教様は、「大きくなるってことはどんなこと？」という質問から話し始め、命の大切さやアシジの聖フランシスコの太陽の賛歌のお話をしてくださった。

部屋の中で輪になってお弁

当を食べ、午後は、引き続き司教様からのまとめのお話を聞き、感想をまとめた。

最後に、司教館の廊下の真ん中にある聖堂で、司教様司式の中



ハンセン病問題を考える④

先日、相田みつをの「がんばるなくてもいいからさ具体的に動くことだね」という句と、イエス様は先ず祈ってそれから小さくされた人々のもとに出かけた、信仰には祈りと行いの両方が必要です、というお話を伺う機会がありました。

仙台教区人権を考える委員会は、昨年末より真宗大谷派などハンセン病問題に取り組む宗教者などと交流を行って来しました。その中で、仙台では各団体・各人がそれぞれ動いているが、東北新生園の皆さんと共に歩む地域のゆるや

かなネットワークづくりを目指す、という声が上がリ、賛同した真宗大谷派、カトリック、日本基督教団、聖公会などの宗教関係者をはじめ教育や医療労働関係団体などのメンバーで「ハンセン病問題を考える市民の集い」を立ち上げ、そのスタートとしてシンポジウム「ハンセン病問題のこれまでとこれから」を私たちが一人ひとりにできることとして開催することとしました。

このシンポジウムは①広く市民にハンセン病問題、特に宮城県にある国立療養所東北新生園の存在を知ってほしい。②関心のある一般の人々とつながりたい。③ハンセン

病問題はまだ終わっていない。私たちの課題でもあることを知ってほしい。④東北新生園の将来構想について私たちに何が出来るのかを一緒に考えたい。⑤現在、東北新生園で暮らす皆さんが抱えている問題、課題を共有したい、という目的で行うものです。日時は6月26日(土) 13時30分～16時30分(13時受付)。会場はせんだいメディアアテック7階スタジオシアター。

キリスト者が「具体的に動くこと」のひとつとして足を運び、困難の中で生きている人々の話を聞く機会としていただければ幸いです。

(仙台教区人権を考える委員会

御供真人)

ミサ写真で、一人ひとりが書いた感想を奉納した。ちよつと緊張したけど、楽しい黙想会だった。(大津知明)

仙台教区青年会の

結束を目指して

やつと仙台でも桜の花が咲き始めました。先日、4月18日(日)元寺小路教会にて、仙台中央地区青年会主催の新青年歓迎会を行い、総勢24名の参加者に恵まれました写真。

主日のミサ終了後に始められた歓迎会は、楽しく深い交流によって、お互いに新しい息吹を感じることが出来ました。

今年から、仙台中央地区青年会を出発点として、仙台司教区内の青年に積極的に呼び掛け、青年会としての関わりを持ちながら、小教区を土台とした信仰生活に喜びと希望をもつて関わる事が出来るよう、様々な試みをしていきたいと考えています。信仰を深め、多くの方のかかわりの中で、是非、未熟な私たちに對して、皆様のお力をお貸しいただきたいと思っております。これから伸びようとしている仙台教区青年会を、どうぞよろしくおねがいします。

(東仙台教会 小田辺 和音)

司教日程

5・6月

- 5・1① 仙台教区修女連
- 11② 司教評定例会、司教団役員会
- 15③ 宣教司牧評役員会
- 16④ 北仙台教会訪問
- 22⑤ 松丘教会訪問
- 23⑥ 聖霊降臨 堅信 元寺小路
- 27⑦ 部落差別人権定例委員会
- 29⑧ 20条の会シンポジウム 北仙台
- 31⑨ 教司祭団月例会
- 6・3⑩ 社会司教委員会
- 6⑪ 塩釜教会訪問
- 8⑫ 司教評・役員会
- 11⑬ OPヴェリタス館落成式
- 12⑭ 13教会委員長の集い
- 14⑮ 18 司教総会
- 19⑯ 一関藤保育園50周年
- 20⑰ 堅信式・いわき教会
- 25⑱ 部落差別人権委・事務局会議
- 26⑲ ハンセン病問題シンポジウム (仙台)
- 27⑳ 元寺小路教会 (聖ペトロ・聖パウロ)
- 28㉑ 教司祭団月例会



各地から

宮城県 亘理教会

教会献堂50周年記念に想う

亘理教会「写真」は2009年10月25日に、献堂50周年記念の感謝ミサと祝賀会を催した。その日は111人の方々が亘理教会に足を運んでくださった。

お礼やその時の様子の報告は時期を逸した観があるが、このたびの教区報でお礼を申し上げる機会に恵まれた。平賀司教様をはじめ神父様、修道女の皆様、県南四教会の皆様、幼稚園の先生、そして「50周年を振り返って」のメッセージをいただきました神父様、修道女の皆様にあらためて感謝とお礼を申し上げます。

亘理教会は地方にある小さな教会で信徒の高齢化などの現状をみたとき、つつい悲観



的に将来を考えがちになっていたが、教会は、今そこ

に居る人たちだけの教会ではない。この50年間亘理教会を離れ各地に行かれた人たち、来てくても来られずにいる人たちにとっては心のふるさというか希望のシンボルのように思っている。大勢の方が「亘理教会のためにいつも祈っています」と話された言葉からそれを感じる。キリストを頭とした私たちは、過去、現在、未来と目に見えなくても繋がっているのだ。互いに関心を持ち、そして祈りをもって支え合っている。そのことを再認識した一日でもあった。神に感謝！

(長嶋治夫)

福島県

新園舎完成

田島教会

昨年8月に起工した福島県南会津町の田島カトリック町の星幼稚園(板垣勤園長)の園舎建て替え工事が終わり、3月25日、同園の遊戯室「てんしルーム」で落成感謝の会が行われた。

会に先立って、南会津教会(旧称・田島教会)では、冬期間に主日ミサを捧げるために利用する園内の祈りの部屋「まりあルーム」で、平賀徹夫司教が司式、佐藤守也学校法人理事長、信徒、教職員が集まって感

謝ミサを行った。

落成感謝の会は湯田芳博町長、創立者Tバルデス神父が祝辞を述べ、約70人の出席者が新園舎の完成を喜び祝った。佐藤守也学法理事長は園舎完成の喜びを語り、設計・施工業者に感謝状を贈った。式の中で、16日に卒園したばかりの年長児が佐藤理事長に感謝の言葉を述べ、聖歌「感謝しようすべて」を斉唱して喜ばれた。

園舎の老朽化によつて全面的に建て替えられ、昨年のクリスマス会から使い始めた新園舎は、延べ床面積約700平方メートルの木造平屋で、地場産の杉や唐松が園内でふんだんに使われている。建て替えに伴って、園内外の整備が行われ、統一性のある幼稚園になった。

翌26日には新園舎の一般公開が行われ、町内の卒園児や多くの保護者が見学を訪れ、ミニバザーなどを楽しみながら、園舎の完成を喜んだ。(板垣勤)

福島県

いわき教会

今年の四旬節黙想会を2月20日、21日にイエズスマリアの聖心会の千原通明師「写真」を講師に招き「恵みの時」をテーマに開催した。3年ほど前から市民クリスマス、世界祈禱日などで知り合った、いわき市内の日本聖公会、日本基督教団、バ



プテスト教会などの方々にも呼びかけたところ、数名が参加してくださった。

講話の中心は、保育園長や老人施設長他の務めに精進、多忙を極められたご自身の体験から、患われた「うつ病」の苦しみを通して働かれた神の恵みについての証しであった。苦しみの中にあつた時、ご自身の叙階式の挨拶に「人の心の痛みがわかる司祭になりたい」と話されたあの願いを神が聞き入れてくださった、神からの恵みだったとご自身が気づかれたことである。そうであっても現実には師のうつ病の苦しみが減った訳ではない。

そんな中で、園名にも名づけられた高山に咲く花丈5センチあまりの「駒草」との出会いがあった。その種は、石地の下で7年をかけて花を結ぶ。これらの事は、貧しく小さな存在として生まれられたイエス様が十字架の死に至るまで身を低く生きられた御降誕の神秘をも想起させる。

無力な私たちは尚更に神に心を開き、神の赦しを受けてその恵みを味わい、感謝のうちに四旬節を過ごせるようにと祈った。(佐々木三代子)

訃報

スール・ポリナ・マリア



川村 ナカ
o.p
聖ドミニコ女子修道会

3月1日帰天(85歳) 誓願後48年
1959年5月30日入会
京都市出身

入会後は、主に事務、会計、天使園の衣服係をしていました。
スール・マリア・テレジタ



熊谷 洋子
o.p
聖ドミニコ女子修道会

3月22日帰天(82歳) 誓願後52年
1954年12月13日入会
白石市出身

天使園で、子どもたちの世話をするほか、地域の民生委員を務めるなど、福祉関係に力を注いでいました。

告知板

催事へのおさそい

沖繩慰霊の日、敗戦の日まで

「平和節」として

仙台正平協の活動計画

カトリック正義と平和仙台協
議会では今年から、6月23日沖
縄・慰霊の日から8月15日(敗戦
の日)までを「平和節」とし、戦争
や平和のことについて学び、行動
する期間としました。

◆6月 23日(水)沖縄・慰霊の日

◆27日(日)集会・テーマ「知ってい
ますか? 沖縄!」

13時30分〜カトリック元寺小路
教会1階ホール

①沖縄戦争体験の朗読

(聖ドミニコ学院高校放送部)

②仙台弁護士会の沖縄調査訪問
の報告(篠塚功照弁護士)

③沖縄修学旅行の発表

(聖ドミニコ学院高校生)

◆7月 10日(土) 仙台空襲の日

◆8日(木)〜11日(日) 戦災復興展

(戦災復興記念館)

◆16日(金) 核廃絶と平和を祈る

ミサ 18時30分 元寺小路教会

◆8月 6日(金)〜15日(日)

カトリック平和旬間

6日(金) ヒロシマ被爆の日

◆7日(土) 平和講演会 in 盛岡

9日(日) ナガサキ被爆の日

15日(日) 敗戦の日

◆連絡先 080-1827-8772(渡辺)

祈りの集い(聖霊刷新)

聖霊刷新は、一九六七年、アメリ
カのデューケン大学で数名のカ
トリック青年が聖霊の満ちたしを
受け、異言を語る体験をしたこ
とから始まり、全世界に広がり
ました。ヨハネ・パウロ二世、
ベネディクト十六世もこの聖霊
刷新は、教会にとって恵みの機会
であると強く勧めています。祈り
の集いの目的は、参加者が聖霊の
勧めに敏感になり、聖霊の賜物を
受け、自分の教会と社会のために
働く恵みを受けることです。聖書
のみ言葉の分かち合い、癒しなど
が行われます。祈りの生活から湧
き出る賛美と感謝を、体験を通し
て周りに伝えることをその役割
としています。

聖霊刷新の入り口として、8週
間のセミナーを実施しています。
その目的は、キリストとの個人的
関係を立て直し確立すること、各
自の生活の内なる聖霊の働きに
目覚め、その臨在とお働きを体験
できるようになることなどです。
仙台の合同祈りの集いは、刷新当
初から関わっているラシヤペル
神父のご指導のもと、月一度、日
曜日2時から元寺小路教会で開
かれています。また、東北大会は
今年の 月 日、日まで、仙
台市の茂庭荘で行われます。
「聖霊による刷新・祈りのセミナ
ー」は今年4月6日〜6月1日ま

での毎火曜日(5月4日は休講)
午後7時〜8時半まで元寺小路
教会2階会議室で行っています。
2週目〜8週目はラシヤペル
神父の講話。現在参加者は 名。
(連絡先・一本杉教会・淀川芳子)

■夏期哲学・神学養成講座

―臨床・パストラルケア哲学
・神学養成講座―

日時 8/26(土) 9時〜 9/4(土) 14時

場所 日本カトリック神学院

講義時間 9時〜15時35分(講義
15時40分〜17時50分(レポート
作成、翌朝8時45分までに提出
各日 1科目 6時限(9/4は1科
目3時限)

準備物 「新・旧約聖書」筆記用具

講義内容

8/26(土) 食と救い(伊藤幸史)

8/27(金) 旧約聖書IIモーセ五書

8/28(土) 新約聖書I(和田幹男)

8/29(日) 哲学概論II(湯浅俊治)

8/30(月) 神学的人間論I(和山 悟)

8/31(火) 霊性神学IIミサと祈り(白浜満)

9/1(水) 罪と赦し(牧山強美)

9/2(木) 神論 三位一体論

9/3(金) 苦と死の意味(大山 悟)

9/4(土) 絵本といやし(松浦信行)

受講料 全科目 ¥25,000
1科目 ¥3,000

申込/問合せ NPO臨床パストラル
教育研究センター本部事務局
TEL03-3700-3425

〒住所・氏名・電話番号・受講
科目・評価希望の有無・金額を記
入の上、上記にFAXにて申し込み
下さい。FAX03-3700-3427

※この講座に関する神学院への問い合わせは、遠慮ください。

※切 6月30日(日)

講演会のお知らせ
日本カトリック医師会仙台支部

日本カトリック医師会仙台支
部は看護協会と共に活動していま
すが、そのひとつとして現社会に
おける医学的な課題を中心とした
講演会を開催して一般公開してい
ます。今年度は5月と6月には下
記の通り、それぞれ公開講演会を
行いますのでお知らせいたします。

①公開講演会

主催 日本カトリック医師会仙台支部

演題 「ストレスとうつ病」

演者 石川 達先生(東北会病院
院長・ワナクリニク院長)

日時 平成22年5月9日(日)

10時30分〜11時30分

場所 カトリック元寺小路教会

②第2回会員交流会記念講演会

主催 日本カトリック医師会仙台
支部・看護協会

演題 「幸せのおすそ分け」

演者 フォレ・エノ神父

日時 6月20日(日) 10時30分

場所 カトリック弘前教会
問い合わせ連絡先

早坂歯科医院内(022-265-5788)

「祈りを深めるための研修会」

in 仙台の1案内

イエズス会霊性センター「せせらぎ」

神との交わりを深め、神の望みを
見出しながら自分の生き方を整え
て、キリスト者として日常生活を
東京にて、年6回のプログラムに
て行なわれている研修会を前半と
後半に分けて、年3回仙台で開催
いたします。宮城県と近隣の県の
皆様のご参加を心よりお待ちしております。

1年目：第1回祈りとは・第2回
自然を素材に祈る・第3回生活を
素材に祈る

2年目：第4回ひ言葉素材に祈
る・第5回意識の究明・第6回祈
りの同伴

日程 7月19日・9月20日・10月
11日(いずれも月・祝)

時間 1年目 10時15分〜16時15分
2年目 9時45分〜15時45分

対象 毎日の生活を祈りによって
整えたいと願う方。

定員 30名

指導 イエズス会霊性センター
「せせらぎ」スタッフ

申込み (代表者Mアモロス師)
津田和加子(024-534-4412)

申し込み ノートルダム修道院
津田和加子(024-534-4412)

申し込み FAX(024-534-3262)

Eメール (moniawaka@live.jp)

※切 7月5日(日)

仙台教区年！ 2011

①仙台教区の誕生まで

2011年7月から始まる「仙台教区年」に向けて、仙台教区の歩みを振り返って見よう。今回は、ザビエルの日本宣教から仙台教区誕生までをまとめてみた。

つた。その後、1857(安政4)年鎖国令が解除されるとパリ外国宣教会の宣教師が、長崎、横浜、函館などの開港地に到着して宣教を始めた。

1868(慶応3年)年パリ外国宣教会のプティジャン神父は日本代牧区司教に任命された。

◆日本北緯代牧区

1876(慶応3年)年5月

日、日本代牧区は日本南緯代牧区、日本北緯代牧区の二つに分けられ、日本北緯代牧区は横浜を中心にして、中部、関東、奥羽および北海道の各地を管轄区域となった。

◆函館教区の誕生

1891(明治)年、日本北緯代牧区は東京教区(6月)と函館教区(4月)の2教区に分割された。

函館教区は北海道(樺太、青森、岩手、宮城、福島、新潟、山形、秋田)の7県を管轄区域とし、パリ外国宣教会に委託され、初代教区長としてA・ペルリオズ司教写真左が就任した。



◆日本代牧区の設置

1846(弘化3)年に日本代牧区として日本の布教がパリ外国宣教会に委託されたが、禁教令のため宣教師の入国はできなかった。

山形、秋田の3県を管轄区域として新潟教区が新設されて神言会に委譲された。

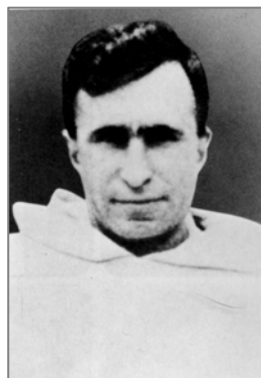
◆札幌教区の新設

1915(大正4年)年2月

日には、函館地区を除く北海道が札幌教区として新設され、ドイツのフランシスコ会(フルダ管区)に委譲されて函館教区の管轄範囲は縮小された。

◆函館教区ドミニコ会に委託

ペルリオズ司教の引退後、4年間A・ウット師が臨時教区長として函館教区を司牧し、1931(昭和6年)年、函館教区をカナダのドミニコ会にゆだねた。4年の間において正式な教区長として司牧にあたったのはアンドレ・デュマス師写真左である。



◆仙台教区の誕生

1936(昭和)年、デュマスの後任者となったマリ・ジョゼフ・ルミュー司教写真右下は、教区長として同年3月9日付でローマ教皇庁の裁可を得て司教座を函館から仙台に移し、教区を仙台教区と改めた。その後、ルミュー司教は、教区長を辞任し、



新刊案内

フラガ神父の料理帳

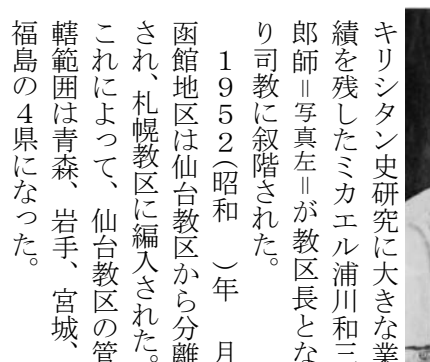
スペイン家庭の味

著者 セサル・フラガ/版画・挿

絵 池田宗弘/写真 南健二

発行 ドン・ボスコ社
定価 2000円+税

著者は、80歳を超えるサレジオ修道会のセサル・フラガ神父である。彼は、現在大分のカトリック杵築教会の現役主任司祭として大活躍中。今度は、その神父が、料理の本を出した、と聞いて手にしてみたところ驚いた。



なんと、楽しいだけではない。フラガ神父が作った料理は、すべてすてきな器に盛られ、写真で見られるようになっている。しかし、それだけではない。各ページに書かれている神父の、その料理にまつわる思い、エピソードが、楽しい読み物、エッセーになっており、ページごとに笑いを誘う。

函館地区は仙台教区から分離され、札幌教区に編入された。これによって、仙台教区の管轄範囲は青森、岩手、宮城、福島の4県になった。



【参考資料】

カトリック中央協議会ホームページ
http://www.catholic.jp/jpn/
宮城県カトリック教会百年のあゆみ
【クイズ】平賀司教は仙台教区で何代目の司教でしょう。

表紙から、各ページにふんだんに、しかも、多すぎずに入れられている挿絵は、有名な彫刻家池田宗弘さんの作品。この本で、さあ料理をしようという読者が、この本の版画や挿絵に見とれて、料理を焦がすのではないかとちょっと心配である。本書には、フラガ神父の生まれ故郷スペインのガルシア地方の料理が、40品紹介されている。その中には、祝日の特別料理として、復活祭、聖母被昇天祭、降誕祭の料理も含まれているのは、キリスト教風土のない日本の読者の参考になるだろう。